

平成12年度
「JICAにおける評価システム改善のため
の調査研究」報告書
(別冊資料)

平成13年3月

国際協力事業団
企画・評価部

別冊資料 目 次

1 . 質問票書式	1
2 . 各機関回答	15
(1) USAID	15
議事録	15
質問票回答	20
(2) 世界銀行	23
議事録	23
質問票回答	25
(3) UNDP	31
議事録	31
質問票回答	33
(4) CIDA	41
議事録	41
質問票回答	47
(5) オランダ外務省	54
議事録	54
質問票回答	60
(6) DfID	67
議事録	67
質問票回答	70
(7) GTZ	76
議事録	76
質問票回答	83
(8) KfW	91
議事録	91
質問票回答	96
(9) 英国評価学会	104
議事録	104
(10) ODI	106
議事録	106

1. 質問票書式

註：全ての調査対象機関に対し、以下の内容の英文質問票を事前に送付し、印刷された形もしくは手書きあるいはFDで回答を回収した。なお、USAIDについては、プロジェクト単位の事業管理を行っていないため、質問票の記入は求めなかった。また、CIDAについては、聞き書きで回答を記録した。

1. モニタリング及び評価方針

貴機関でのモニタリング及び評価実施に関する方針又は指針にはどのようなものがありますか。

2. 評価形態

1) 評価実施機関：主に誰がプロジェクト評価を実施しますか。
<input type="checkbox"/> (1) 内部評価：()
<input type="checkbox"/> (2) 外部又は独立機関による評価：()
2) 評価時期：プロジェクトサイクル中のどの時期に評価を実施しますか。以下から選択し、評価実施時期を()内に記入してください。
(標準プロジェクト期間： 年)
<input type="checkbox"/> (1) 事前評価/プロジェクト形成時評価：プロジェクト実施の()ヶ月前
<input type="checkbox"/> (2) 中間評価：プロジェクト実施から()年後
<input type="checkbox"/> (3) 終了時評価：プロジェクト実施期間の()ヶ月 <input type="checkbox"/> 前 / <input type="checkbox"/> 後
<input type="checkbox"/> (4) 事後評価：プロジェクト終了時の()年後

3. 評価の選択基準

中間評価、終了時評価及び事後評価に関する基準を記入してください。また、各評価のプロジェクト総数に対する概算構成比も記入してください。

<input type="checkbox"/> 1) 中間評価 (1) 義務的評価 (選択基準) . . . (構成比) ____%
(2) 任意評価 (選択基準) . . . (構成比) ____%
<input type="checkbox"/> 2) 終了時評価 (1) 義務的評価 (選択基準)

<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>(構成比) ____%</p> <p>(2) 任意評価 (選択基準)</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>(構成比) ____%</p>
<p><input type="checkbox"/> 3) 事後評価</p> <p>(1) 義務的評価 (選択基準)</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>(構成比) ____%</p> <p>(2) 任意評価 (選択基準)</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>(構成比) ____%</p>

4. 評価方法

1) 評価基準

主な評価基準（効果、効率性、インパクト等）及びその定義を記入してください。

<input type="checkbox"/> (1) () 【定義】
<input type="checkbox"/> (2) () 【定義】
<input type="checkbox"/> (3) () 【定義】
<input type="checkbox"/> (4) () 【定義】
<input type="checkbox"/> (5) () 【定義】
<input type="checkbox"/> (6) () 【定義】

2) 評価手段

(1) 定量評価

(2) 定性評価

(3) 段階評価

(4) その他： ()

追加情報がありましたら以下に記入してください。

--

3) 定量指標の内容

以下の枠内に記入してください。

(1) レベル*： 上位目標

適用範囲及び 必要項目	適用範囲（セクター、地域、地区等）： 必要項目：
確認手段	. . .
事例	

* ログフレームの概念による。

(2) レベル： プロジェクト目標

適用範囲及び 必要項目	適用範囲： 必要項目：
確認手段	. . .
事例	

質問： 技術協力事業の場合、貴機関では最終受益者の状態の変化について何も言及しな

いプロジェクト目標を設定することはできますか。(例えば、農業者自身については触れずに「農業普及サービスを強化する」のように)

()

(3) レベル：アウトプット (成果)

適用要件及び 必要項目	適用範囲： 必要項目：
確認手段	. . .
事例	

4) 評価指標の設定時期

(1) プロジェクト実施期間中の初期指標をどの時期にどんな方法で実際に決定しますか。

プロジェクト開始の()ヶ月 前 / 後

(2) 誰が指標を決定しますか。()

(3) どんな方法で指標を決定しますか。()

(4) プロジェクト開始後半年以内に、概ねプロジェクト総数の何パーセント位で評価指標が明白に設定されていますか。

(5) どんな状況下で評価指標を見直しますか。

(6) 貴機関ではプログラムアプローチと呼ばれる事業形態を採用していますか。

はい / いいえ

(7) 設問(6)の回答が「はい」場合、プロジェクトの指標は当該プロジェクトが含まれるプログラムの指標と何らかの関連性がありますか。(例えば、プロジェクトの指標がプログラムのログフレーム中にも使われる等)

5. 評価分析

評価形態毎に回答してください。(該当する評価形態及び回答にレ印をつけてください。)

1) 事前評価/プロジェクト形成時評価

(1) 評価担当者

内部 / 外部

具体的に誰が評価を担当しますか。(例えば、本部事業部職員、本部評価部職員、
現地事務所職員、コンサルタント等)：

()

(2) 評価実施場所

予定されているプロジェクトサイト

評価実施機関の現地事務所

評価実施機関の本部

(3) 評価実施期間

1) 評価の総期間

() 日 / 週

2) 予定されるプロジェクトサイト (受入国) での調査期間

() 日 / 週

(4) 調査分析方法

インタビュー

調査

サイト訪問

RRA (簡易農村調査手法)

PCM (プロジェクト・サイクル・マネジメント) ワークショップ

既存報告書の分析

既存統計資料の収集

その他：()

(5) 評価分析項目

a. 主な評価分析項目について記入してください。

.

b. 次の評価項目2つについて質問に答えてください。

組織面：援助受入国の案件実施機関の能力がプロジェクトの成功、又はプロジェクトの持続的発展を左右する上で極めて重要であることから、JICA ではこの面での分析を強化する方向です。

・この目的を達成するために貴機関は何か特別なことを実施していますか。

・この目的を達成するために BSC（均衡得点カード法）及び ID/OS 手法等の分析手法を取り入れることについてどう考えますか。

外部要因：プロジェクト目標の確認のみならず最終目標に対して確実なインパクトを与えるためにも JICA では案件形成時に外部要因を分析することも重要であると認識しています。

・この目的を達成するためにどのような分析を実施していますか。

(6) 最終アウトプット（成果）

評価/案件形成の結果はいくつかの基準を含むチェックリストに要約されていますか。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

事前評価/案件形成時評価と以後の評価は継続性が確保されていますか。言い換えれば、事前評価/案件形成時評価の段階で使用される重要な評価基準は以後の評価分析において評価基準として継続的にモニターされていますか。

(7) 分析結果の利用

評価結果に基づき何が実施されますか。（例えば、プロジェクトの実施可否の決定等）

2) 中間評価

(1) 評価担当者

内部 / 外部

具体的に誰が評価を担当しますか。(例えば、本部事業部職員、本部評価部職員、現地事務所職員、コンサルタント等)：

()

(2) 評価実施場所

プロジェクトサイト

評価実施機関の現地事務所

評価実施機関の本部

(3) 評価実施期間

1) 評価の総期間

() 日 / 週

2) プロジェクトサイト (受入国) での調査期間

() 日 / 週

(4) 調査分析方法

インタビュー

調査

サイト訪問

RRA

PCM ワークショップ

既存報告書の分析

既存統計資料の収集

その他：()

(5) 最終アウトプット (成果)

内容 (報告書の表等) を次に例示してください。

・ ・ ・ ・ ・

(6) 分析結果の利用

分析結果は実施中のプロジェクト又は他のプロジェクト (将来に実施されるものを含む) にどのように利用されますか。

--

3) 終了時評価

(1) 評価担当者

内部 / 外部

具体的に誰が評価を担当しますか。(例えば、本部事業部職員、本部評価部職員、現地事務所職員、コンサルタント等)：

()

(2) 評価実施場所

プロジェクトサイト

評価実施機関の現地事務所

評価実施機関の本部

(3) 評価実施期間

1) 評価の総期間

() 日 / 週

2) プロジェクトサイト (受入国での)

() 日 / 週

(4) 調査分析方法

インタビュー

調査

サイト訪問

RRA

PCM ワークショップ

既存報告書の分析

既存統計資料の収集

その他：()

(5) 最終アウトプット (成果)

内容 (報告書の表等) を次に例示してください。

.

(6) 社会経済インパクト分析

a. 評価手法：()

b. 評価分析項目

.

c. 評価分析結果の表記方法

- 段階評価 / 叙述 / 表又はマトリクス

(7) 分析結果の利用

分析結果は実施中のプロジェクト又は他のプロジェクト（将来に実施されるものを含む）にどのように利用されますか。

4) 事後評価

(1) 評価担当者

- 内部 / 外部

具体的に誰が評価を担当しますか。（例えば、本部事業部職員、本部評価部職員、現地事務所職員、コンサルタント等）：

()

(2) 評価実施場所

- プロジェクトサイト
 評価実施機関の現地事務所
 評価実施機関の本部

(3) 評価実施期間

1) 評価の総期間

() 日 / 週

2) プロジェクトサイト（受入国）での調査期間

() 日 / 週

(4) 調査分析方法

- インタビュー
 調査
 サイト訪問
 RRA
 PCM ワークショップ
 既存報告書の分析
 既存統計資料の収集
 その他：()

(5) 最終アウトプット（成果）

内容（報告書の表等）を次に例示してください。

・

・

・

•
•

(6) 社会経済インパクト分析

a. 評価手法：()

b. 評価分析項目

•
•
•
•
•

c. 評価分析結果の表記方法

段階評価 / 叙述 / 表又はマトリクス

(7) 分析結果の利用

分析結果は他のプロジェクト（将来に実施されるものを含む）にどのように利用されますか。

6. 参加型評価

現時点での貴機関における参加型評価の導入について記入してください。

注：参加型評価(PE)についての特徴は以下の通り。

参加型評価を導入することにより援助機関、相手方実施機関、裨益者等のプロジェクトの利害関係者を積極的に評価過程に関与させることができる。参加型評価は従来の評価と比べ、以下のような特色がある。

- ・プロジェクト参加者の重視及び評価の当事者意識の向上
- ・多様な利害関係者の参加
- ・評価から学ぶことの重視
- ・柔軟な評価設計
- ・簡易調査手法の活用
- ・外部者の促進者（主体ではない）としての活用

(1) とても積極的に導入している

(2) 積極的に導入している

(3) 積極的に導入しているとはいえない

回答が(1)又は(2)の場合、活用事例を記入してください。また、回答が(3)の場合、その理由を説明してください。

--

7. 評価コスト

1) 貴機関の本部から受入れ国（プロジェクトサイト）へ調査団の派遣を行い案件形成又は評価分析を実施する場合の概算費用を記入してください。

(1) 事前評価/案件形成時評価：()US\$

(2) 中間評価：()US\$

(3) 終了時評価：()US\$

(4) 事後評価：()US\$

2) 義務的評価の場合の1プロジェクトの総コストに対する一連の評価活動経費は概算で何パーセント程度ですか。

()%

3) 全てのプロジェクトの総コストに対する評価活動経費合計は概算で何パーセント程度ですか。

()%

8. プロジェクト管理の他側面

1) 案件計画

プロジェクトの詳細計画は上記の事前評価/案件形成時評価とは別個に実施されますか。

はい / いいえ、事前評価/案件形成時評価に含まれています。

回答が「はい」の場合、以下の質問に答えてください。

(1) 事前評価/案件形成時評価の後に詳細計画を作成していますか。

はい / いいえ

正確にはいつ頃詳細計画を作成しますか。()

(2) プロジェクトの詳細計画作成調査に関して、次の質問に答えてください。

(1) 調査担当者：()

(2) 調査実施場所

予定されているプロジェクトサイト

調査実施機関の現地事務所

調査実施機関の本部

(3) 調査期間

() 日 / 週

(4) 調査方法

インタビュー

調査

サイト訪問

RRA

- PCM ワークショップ
- 既存報告書の分析
- 既存統計資料の収集
- その他：()

(5) 調査分析項目

主な調査分析項目について記入してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ ・

(6) 最終アウトプット（例えば、プロジェクト設計書等）

内容（報告書の表等）を次に例示してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ ・

(7) 上記調査に関する総予算はどの位ですか。

概算 () US\$

2) ベースラインサーベイ

(1) ベースラインサーベイの実施時期（具体的にいつ頃）：

(2) 調査担当者

- 受入れ国側プロジェクトチームの職員
- ドナー国側プロジェクトチームの職員
- 両者の職員全て
- 両者のチーム職員+その他 ()

(3) 調査期間

() 日 / 週

(4) 調査分析方法

- インタビュー
- 調査
- サイト訪問
- RRA

- PCM ワークショップ
- 既存報告書の分析
- 既存統計資料の収集
- その他：()

(5) 調査分析項目

主な調査分析項目について記入してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・
--

3) プロジェクトモニタリング

貴機関ではモニタリングに関してどのような活動を実施していますか。

(1) モニタリング担当者

- 受入れ国側プロジェクトチームの職員
- ドナー国側プロジェクトチームの職員
- 両者の職員全て
- 両者のチーム職員+その他 ()

(2) 報告頻度

() 回 年 / 月

(4) モニタリング方法

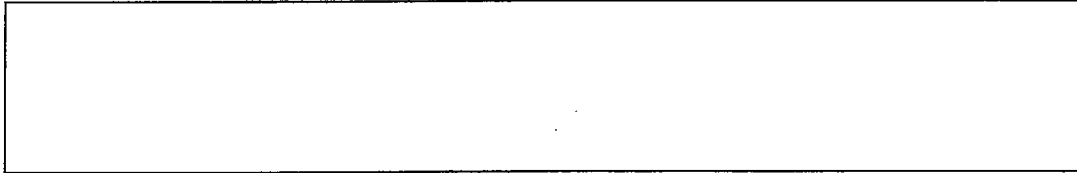
- インタビュー
- 調査
- サイト訪問
- RRA
- PCM ワークショップ
- 既存統計資料の収集
- その他：()

(5) 調査分析項目

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ ・

(6) モニタリング結果の利用

モニタリング結果は実施中のプロジェクトに対してどのように利用されますか。



9. 成果管理 (RBM)

現在、国際機関又は二国間援助関連機関において RBM の重要性が強調されています。

1) 貴機関では RBM の導入又は強化に関して何か特別な事柄を実施していますか。

2) RBM が個別プロジェクト又は貴機関全体に与えるインパクトは何ですか。

3) この他に貴機関が実施検討している事柄又は直面している問題点等がありますか。

はい / いいえ

回答が「はい」の場合、具体的に内容を説明してください。

()

どんな措置を取りましたか。

()